

① 山本麻子 著

『書く力が身につくイギリスの教育』

(岩波書店)

本書は、イギリスの初等・中等教育における「書く力」の指導法を紹介しています。著者は、自分の子ども3人がイギリスで受けた教育をもとに、どのような指導を受けたかを、「国語」「理科」「社会」といった実際のノートを具体的な資料として提示しながら説明しています。

全教科において「書く力」は「考える力」を鍛えるという視点から、徹底的に「書く力」を指導するイギリスの教育は、現在教育の現場に携わっている人、これから教職を目指す人ばかりでなく、一般企業の中で職場指導に関係する立場にいる人にとっても大いに参考になります。

372.33-Yam (F.O.)

③ マイケル・サンデル 著 鬼澤忍 訳

『これからの「正義」の話をしてい
いまを生き延びるための哲学』

(早川書房)

現代社会の様々な事例をもとに多角的視点から「正義」とはなにかについて政治哲学を専門とする著者の持論が述べられています。正義とは人の数だけあるだろうし正解はないように思える、しかし決断をせまられる状況に直面したら。思想と哲学、倫理と道徳、これを述べるにあたっての論理がどれだけ大切なものかを考えさせられる内容です。

「哲学」とこむすかしく考えずに、まずは自分なりの考えを持つため、物事を知るためにも一読するのを勧めます。

311.1-San (C.M.)



② 塩野七生 著

『日本人へ』

(文藝春秋)

鋭い分析力と豊かな想像力でローマ帝国時代を舞台とした歴史小説を書く塩野七生女史。イタリアを拠点に執筆活動をする彼女が現代の日本人に「もの申す」一冊。

カエサルやアウグストゥスなど古代ローマのリーダーのすがた(提言)を借りて、日本の政治・外交・軍事のお粗末さを叱咤する。そこには海の向こうから日本を冷静に観察し、何とか立ち直って欲しいと日本を愛するがゆえの願いがあるのでは。

古代ローマと現代日本では社会や考え方、生き方も当然違うが、日本の現状を語るにローマ時代を巧みに引き合いに出し、理路整然、なるほどと思わせるのは塩野女史ならではの文章力だ。

914.6-Shi (Y.S.)

④ 外山節子 監修・著 宮下いづみ著

『読み聞かせのための音のある英語絵本ガイド：
子どものために、そして自分のためにフル活用』

(コスモピア)

最近CD等の音源が付いた英語の絵本が多数出版されるようになりました。その水先案内をしてくれるのが本書です。まずはTOP100が、1ページに1冊ずつカラー図版と共に簡潔に紹介されていて、その中の45冊については付属のCDでサンプル音源を聞く事が出来ます。更にTOP100には入らなかったものの、個性豊かな絵本をNEXT35として追加紹介しています。

本書はただ単に英語絵本をリストアップするだけではなく、絵本の効果的な使い方、小学校での活用方法なども提案しています。

絵本は何も子供の専有物ではありません。大人が読んでも楽しめますし、音源が付いていれば英語の学習にも役立つでしょう。本書を手にして、英語絵本の世界に迷い込んでみませんか？

019.53-Toy (T. F.)